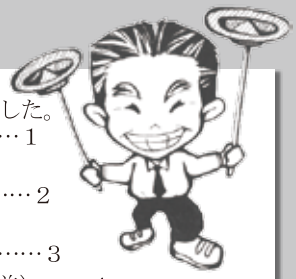
INDEX



●心からの励ましをありがとうございました。（早川たかし）……1
●イタズラ村探訪記（白梅学園大学・汐見稔幸）……2
●イタズラ村を訪問して思うこと（弁護士・早川修）……3
●「懐かしい時間」（海清保育園・川原晶美）……4
●会費について……4
●皿回し授業・講義作り情報……5
●富山市内中学校での講演会資料……6～8
●ゆったり水曜会……9
●2011年の事業計画と運営計画……10

連絡先
NPO法人　富山・イタズラ村・子ども遊ばせ隊
〒930-0138　富山県富山市呉羽町 6454 番地 1
電話・FAX　076－436－6675

NPO富山・イタズラ村・子ども遊ばせ隊の支援者の皆様

心からの励ましをありがとうございました。

2008年7月12日に起きた「イタズラ村・真生会富山病院親子合宿」（※）での死亡事故は、遊びを通した子どもの健全育成を願い活動をしていた私にとって、重くつらいものでした。どう弔いどう償えばよいか、悩みました。また、どんな活動をどのように継続するべきか。再生することはできるのだろうかと、ずっと悩み続けました。

警察での取り調べは約半年に渡り、2009年2月末に終了しました。また、ご遺族に対しお弔いをし続けましたが、示談には至りませんでした。そのまま悶々とした日々が続きました。

2009年4月25日、こども環境学会最終日の総会で木下勇先生（千葉大学大学院教授）から「子どもの自由な遊びと安全・安心の環境形成のためのガイドライン」（独立行政法人福祉医療機構の助成事業）の作成に参画しないかという話がありました。勿論、躊躇はありました。しかし、この事故の反省をふまえ参加することには意味があると考えて、メンバーに加えていただくことにしました。ガイドライン作成会議は東京で行われ、上京し学ぶ機会に恵まれました。

7月12日、一周忌。事故現場近くにお地蔵さんを建立しました。そして、月に2回は花を手向けに行く日常は続きました。

2010年3月、事故から1年7ヶ月が経って、『業務上過失致死罪』で書類送検されました。通らなくてはいけない道と分かりながらも、報道の大きさに不安が募りました。

5月下旬に検察庁から呼び出しがありました。取り調べはその日で終わりました。そして、6月中旬に簡易裁判所から、罰金50万円の「略式命令」が出されました。すぐに罰金を払い込みました。こうして、刑事事件としては決着しました。

この間（2年余り）、「遊びのレッスン付き講演」の数も減り、「イタズラ村合宿」を実施する元気もなく、NPOの活動は停滞しました。

しかし、細々とでも活動を継続することが出来たのは、「子ども力・遊び力は、日本の親子や保育を元気にする！」との周りからの声援があったからです。事故の経緯を知った上での講演依頼や「おもちゃの駄菓子屋」（初級用皿まわしセットなどの販売）が細々ではありましたが、絶えることがありませんでした。

保育関係者の皆様、イタズラ村の会員の皆様など、多くの人達に支えられてきました。時々は不安が募ったりはしましたが、心が引きこもり精神を病むまでには至りませんでした。

約3年余りの月日は、短いようで長い、長いようで短い期間でした。気がつくと、母が亡くなり、自分の齢も60。「あと何年の人生？…自分の役目とは？…」、「死の償いとは…」「子どもの幸せって？」「不登校？虐待？発達障害？…」。仕事がない分、時間だけはたっぷりありましたから、読書をしながらいろんなことを考えました。求められて子育て相談にのりました。いろんなすてきな親子に出会えました。

いつか再出発の時が来る時の「リハビリ」（？）用にと、保育園や小学校に出かけ子どもたちと遊びました。「アスペルガー症候群」や「ADHD」と呼ばれる子どもたちとも遊びました。一緒に遊んで身体を動かすと、子どもたちは哀しさや寂しさや優しさを見せてくれました。

「けん玉校長」と呼ばれた寺西康雄さんと「日本けん玉協会・富山支部」も作りました。そこにも多くの悩みを抱える親子が集まってきています。

この間　理解者や協力者や仲間は減るどころか、少しずつ増えました。イタズラ村合宿はどうする、NPO活動の具体像をどうする、など仲間たちと新たな夢を描こうと思います。

今後は亡くなられた子どもさんの冥福を祈りながら、NPOの活動の再生にむけて動き出します。

これからも　よろしくご支援をお願いいたします。

理事長　早川隆志

※08年7月12日（土）12時30分頃、子どもイタズラ村合宿中、富山市八尾町の野積川でY君（小学校3年）、溺れる。県立中央病院で心肺蘇生術をほどこすも、8時間後に死亡。この合宿は6年前から年1回、真生会富山病院心療内科（明橋大二医師）と当NPOが共同で行っていたもの。当日の参加者は、心療内科に通院している子どもとその保護者及び兄弟（子ども9名、保護者9名）で、Y君は両親と参加していた。また、明橋医師他医療スタッフ3名、早川隆志他NPOスタッフ4名。